

第4分科会 教育環境

「自ら学び 心豊かにたくましく、
未来社会を切り拓く生徒の育成」

～SDGs 達成に向けた教育実践及び、
学校とPTAの持続可能な活動を目指して～

那覇市立松島中学校 教諭 高良直人



1 はじめに（松島中学校の紹介）



本校は、首里城に向かう丘の中腹にある。校舎からは那覇の町や東シナ海が一望でき、朝日や夕日が美しく、モノレールの走行も見える風光明媚な場所に位置している。

隣接する末吉公園は自然豊かで多くの生物・植物が生息している。そのため校庭には野鳥のさえずりが響き、生徒たちは豊かな自然と、環境の中で学習に取り組んでいる。

また、発展著しい新都心を校区の一部とし古き良き首里の伝統と新しい都市が混在する街で松島中学校の教育活動が営まれている。

本校は、昭和37年4月、琉球政府立松島中学校として創設、今年61年目を迎える。

「松島」の名は、学区域の松川の「松」、古島の「島」の一字を組み合わせ命名された。琉球政府立としたのは、将来的に、琉球政府立琉球大学の附属中学校にする構想があったからである。本校は、琉球大学における「大学での研究を実験する学校（教育実習及び実践等）」「各小中学校との連絡学校」としての特別な使命を帯びて開校している。

本校は、これまで英語弁論大会や意見発表、バレー、バスケ、サッカー、バドミントン、テニス、吹奏楽等などスポーツ・文化の両面で多くの生徒が活躍し、今日に至っている。

校庭の石碑には、「松に吹く風は、いつも平和・松風の吹き渡る世界は広い」が刻まれており、生徒と教師、そして保護者が共に信頼・協力しあいながら、地域と連携した開かれた学校づく

りが行われてきた。

地域の伝統行事である「那覇ハーリー」や「旗頭フェスティバル in なは」への参加も、保護者（PTA）の指導・協力のもと生徒たちが主体的・積極的に活動を行っている。

PTA活動では、全国中学校PTA広報誌コンクールにて、文部科学大臣賞を受賞するなど活躍も著しい。

今大会において、教育実践の発表の機会を頂き感謝します。第4分科会のテーマである「教育環境」について、本校で取り組んでいるSDGsの教育実践と「多様化する教育環境とPTAの役割」について提言します。

2 SDGsと松島中学校の学校教育目標

SDGs(Sustainable Development Goals)「持続可能な開発目標」は、2015年に国連サミットで採択され、2030年までに国際社会が取り組むべき目標である。

世界共通の17の目標（ゴール）で構成され、環境・社会・経済のバランスを保ちながら、「誰一人取り残さない」を合い言葉に、持続可能な社会づくりを目指している。

17のゴールのうち目標4に「教育」が位置づけられており「すべての学習者が持続可能な開発を推進するための知識とスキルを獲得できるようにする」と謳われている。

これらのことを踏まえ松島中学校では、学校教育目標に「未来社会を切り拓く」という言葉を追加した。具体目標にも「国際・持続」の項目を加え、「国際的な視野に立ち持続可能な社会を切り拓く生徒」の育成を目指すことを明確にしている。

第4分科会

昨年度、沖縄県教育委員会からの研究指定を受け、「SDGs達成に向けた教育実践」に取り組み、今年度も継続し研究を続けている。

研究では、各教科や学校行事など教育活動全体を通じてSDGsに取り組み、自分自身の学びに新たな意義や価値付けを行い、学習の目的を明確にさせている。SDGsを意識して学習することで、地域に根ざした身近な学習が世界とつながり、長期的に地球規模の課題解決を考え、行動することができると思う。

3 松島中PTA活動とSDGsの結びつき

本校PTA会則の第3条に「学校・家庭・地域社会の協力によって、松島中学校生徒の教育の振興を図り生徒の幸福と健全な成長を期す。」(一部要約)と明記されている。

本校PTAは、学校教育を進めるうえで、いつも協力的である。学校の教育活動にご理解を賜り、連携・協働して、生徒の教育活動をサポートしていただいている。

新学習指導要領では、「社会に開かれた教育課程」について、次のことが明記されている。「社会のつながりの中で学ぶことで、子どもたちは、自分の力で人生や社会をよりよくできるという実感を持つことができる。このことは変化の激しい社会において子供たちが困難を乗り越え、未来に向け進む希望や力になる。そのため、これからの学校には、社会と連携・協働した教育活動を充実させることがますます求められます。」

昨年度スタートしたSDGs達成に向けた教育実践は、本校PTAを軸に、地域人材の活用や多様な価値観を持った人々との交流、そして、地域にある自然や文化施設での体験活動等を様々な面でサポートしていただいている。

学校が行う教育内容や、教育活動に必要な人的・物的資源等を、PTAが主体になり提供していただき大変助かっている。これは、SDGs⑩「パートナーシップで目標を達成しよう」につながるものと思う。

学校とPTA活動との結びつきや連携は不可

欠であり、共にSDGs達成に向けた教育実践を行いながら地域社会が相互に関係していることを理解し、いくつかの目標を関連させた多面的、多角的な取組により、グローバルな視野を獲得できるものと思う。それは、研究にあたり、地域の方々と連携・協力した数多くの教育実践を行っているからだ。

4 SDGs達成に向けた具体的教育実践

(SDGsはみんなで取り組む「共有できる目標」)



(実践内容と共にSDGsの目標番号を記しています)

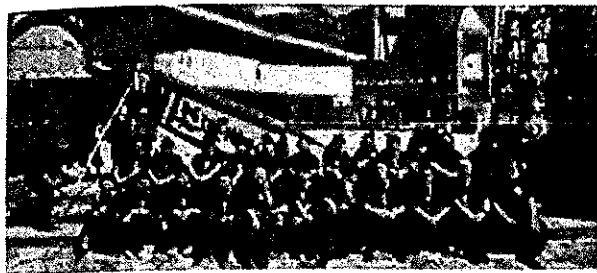
(1) 「地域の伝統行事」への参加 目標⑩⑪

5月3日に行われる「那覇ハーリー」へ毎年、生徒・PTAで参加している。保護者の中に「那覇ハーリー保存会」のメンバーがおり、その方々に生徒への実技指導を仰ぎながら地域行事に参加ができています。今年度は男子生徒が準優勝、PTAの部では、コース内優勝と良い結果を残すことができた。

「旗頭フェスティバル in なは」では、地域の真嘉比青年会と真嘉比旗頭保存会の協力を得て、伝統行事に参加している。PTAの協力と、青年会、旗頭保存会の演技指導により、1～2ヶ月の練習期間で、生徒は立派に成長し旗頭を持てるようになる。部活動に入っていないメンバーや一部の配慮を要する生徒、気になる生徒たちも気軽に参加しており青少年の健全育成や居場所作りにもつながっている。地域の芸能文化の継承と、引き継ぐ大切さを学ばせる良い機会を生んでいる。実際、中学校卒業後に青年会に入り、活動を続け、

中学生へ指導している卒業生も大勢いる。

また、校区内には「末吉町十五夜祭」などの伝統行事も多く残されていて、こちらもPTA活動と多くの生徒の参加が見られる。



(2) 「環境保全教育」の実践 目標①②③⑤⑦

総合的な学習の時間を中心に、「環境保全教育」にも力を入れている。保護者が所属している「天然繊維循環国際協会」による講話の実施。「FOOD REBORN」の協力を得て、天然繊維プランターを活用した花の苗植えも行った。資源を無駄なく有効活用し、ものを大切に使い続ける意義・意識を学んだ。

また、「森の家みんな」と保護者の協力を得て「末吉公園フィールドワーク」を行っている。自然の豊かさを実感し、環境保全に対する意識を高める教育実践になっている。

さらに2学年で実施する「首里ま〜い」は、首里城周辺の自然や歴史・文化遺産を観察、散策する学習で、生徒と保護者が一緒に活動し、地域に残されている貴重な環境や資源について考えさせる学習を行っている。

終了後にPTAから「山城まんじゅう」のおやつをプレゼントするなど、伝統的なお菓子を頂き、生徒たちからも大変喜ばれている。

それ以外にも「日本ユネスコ協会」認定の、「SDGs パスポート」によるボランティア活動も実践している。松島中ではSDGs委員会を設置しており、隔週の水曜日に自主的に地域の清掃ボランティアを行っている。昨年度は、沖縄で初となるユネスコ受賞者も誕生した。

また、地域自治会では毎月第3日曜日に継続的なクリーン活動を実施しており、生徒と保護者が地域の環境保全に努めている。

(3) 「平和教育」の実践 目標①②④⑩⑬⑰

毎年、「株式会社ユニクロ」とコラボして、「届けよう服のチカラプロジェクト」へ参加している。UNHCR(国連難民高等弁務官事務所)とともに取り組む参加型の学習プログラムで、貧困で苦しむ地域へ、子どもたちと保護者が主体となって、家庭や地域のタンスで眠っている子ども服を回収し、難民などの服を必要とする人々に届けている。

「平和教育講演会」の実施に関しては地域より講師を招いて、戦争の恐ろしさや平和の大切さ、命の尊さを学んでいる。今年度は、PTA協賛で「国立長崎被爆死没者追悼平和記念館」による「被爆体験講話」を実施し、柿田富美枝様をお招きして、被爆体験を保護者と共に聴くことができた。講話を聴いた2年生は実際に修学旅行で、原爆資料館を訪れ、再度、平和学習に取り組んでいる。

沖縄だけではなく長崎の原爆と関連付けた平和教育を通し、世界規模の平和について考えを深めることができている。

(4) 「キャリア教育」の実践 目標⑧⑨⑪⑰

「那覇市経済観光部」「ケイオーパートナーズ」の協力を得て、キャリア教育支援事業「産業教育プログラム」と「NAHA ミライ City in School」を開催した。毎週、保護者や那覇市内の企業から講師を招き、働く意義やそれぞれの企業が取り組んでいるSDGsについて学んだ。

また、県立武道館にて、15の企業を招き、ワークショップを開催、生徒自らのキャリア形成を育む有意義な時間を持てた。

これらの学習を総括し、「10年後のより良い那覇市〜持続可能な社会〜」について考え、各班でプレゼンを作り、代表者が那覇市長へ実際に発表する機会も設けてもらった。みんな考え、意見を共有し、持続可能性を探る有意義な教育実践につながっている。

(5) 「質の高い教育を…」 目標①③④⑪

「地域の子どもは地域で育てよう」を合い

言葉に、松島中校区に通う児童生徒が安心・安全な環境で学べる教育環境を整えている。PTAが主体となり那覇市や地域 NPO 法人等と協力しながら、様々な活動を行っている。「子ども食堂」「地域包括センターの開放」「無料学習塾」など、子どもと大人と地域の方々とのつながりを大切にする取組がなされ、子どもたちの居場所づくりに努めている。

これらは、教育の機会均等や学習の保障、多様な活動を通して、子どもたちの自己肯定感を高める健全育成にもつながっており、子どもの権利を守る取組になっている。

また、地域安全を守る「夜間巡視活動」については、近隣校で、巡視活動自体がなくなっている中、毎月継続的な活動が行われている。教員・保護者・青少協・地域民生員警察補導員で連携・協力し、実施している。

「地域の子は地域で守る」を基本方針として、これからも、持続可能な夜間巡視活動を継続させていきたい。

最後に特色ある P T A 活動を紹介する。

「3年生ふくろうマスコット作り」は、受験生のメンバーに、保護者が合格祈願の手作りマスコットをプレゼントする取組である。「ふくろう=不苦労」の願掛けで、今年で10年目を迎える。

「PTA親睦グランドゴルフ大会」は、年度末の P T A と先生方の親睦会であるが、参加人数も規模も大きく、グランドゴルフで汗を流した後の親睦会では、1年間のお互いの労をねぎらいながら、感謝の気持ちを伝え合う、良い場となっている。

「保護者や地域住民の側に、自ら子どもたちの支援に積極的に関わり、自分たちの手で学校をより良くし、子どもたちを育む意識や志が生まれつつある。子どもも大人も自らが主体となり地域を活性化する取組に挑戦し学校を核に地域全体を『学びの場』と捉え、地域基盤を再構築し、社会全体で互いの幸せについて考え、学び続ける社会の形成を進めていく（一部要約）」。

これが、目指すべき理想的な「教育環境」と考える。

地域社会や家庭を巡る問題が深刻化している中、子どもたちが激動の社会を生き抜くための力、自ら課題を発見し、課題の解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習の充実を図る必要がある。そのための「教育環境」の整備と構築は最優先事項ではないだろうか。

松島中学校で行っている「SDGs 達成に向けた教育実践」では、学校と P T A の連携で、地域社会と参画しながら共に歩む新しい学習スタイルが築かれつつある。生徒と教師の学習を支えるための基盤が創られ、新しいステージへの架け橋となるようなものが見え始めている。

子どもたちの育成の視点、学校運営の改善・充実の視点からも地域との一層の連携・協働が重要である。それぞれの地域に残されているものを、持続可能なものへと昇華させていくためには学校の教育力と P T A のそれを支える力がなければいけないと考える。

5 おわりに…理想的な「教育環境」とは



文部科学省「時代の変化に伴う学校と地域の在り方について」に、次のことが明記されている。